

～振動源から受振部まで～

対策箇所別
振動低減技術
まとめ

環境の変化で増える振動問題

振動問題は以前より増え、対策検討が大事になります。

生活変化

都市活動の24時間化

都市化

振動源と受振点が近接

嗜好の変化

より静かな環境の要求

働き方の変化

生産性向上環境作り

快適居住・執務空間
生産品質の維持・向上

建物用途変化

複合施設における振動問題

(スポーツ施設、店舗、住居
オフィス、ホテルの混在化)

経年変化

建物の長寿命化による

振動性能の低下

(機能劣化、剛性低下)

構造・技術の変化

新工法、新材料による
揺れやすい建物の増加
ペンシルビルの増加

周辺環境変化

周辺環境の変化が早い
住宅地化、交通インフラの変化
(竣工時、5年、10年後に劇的变化)

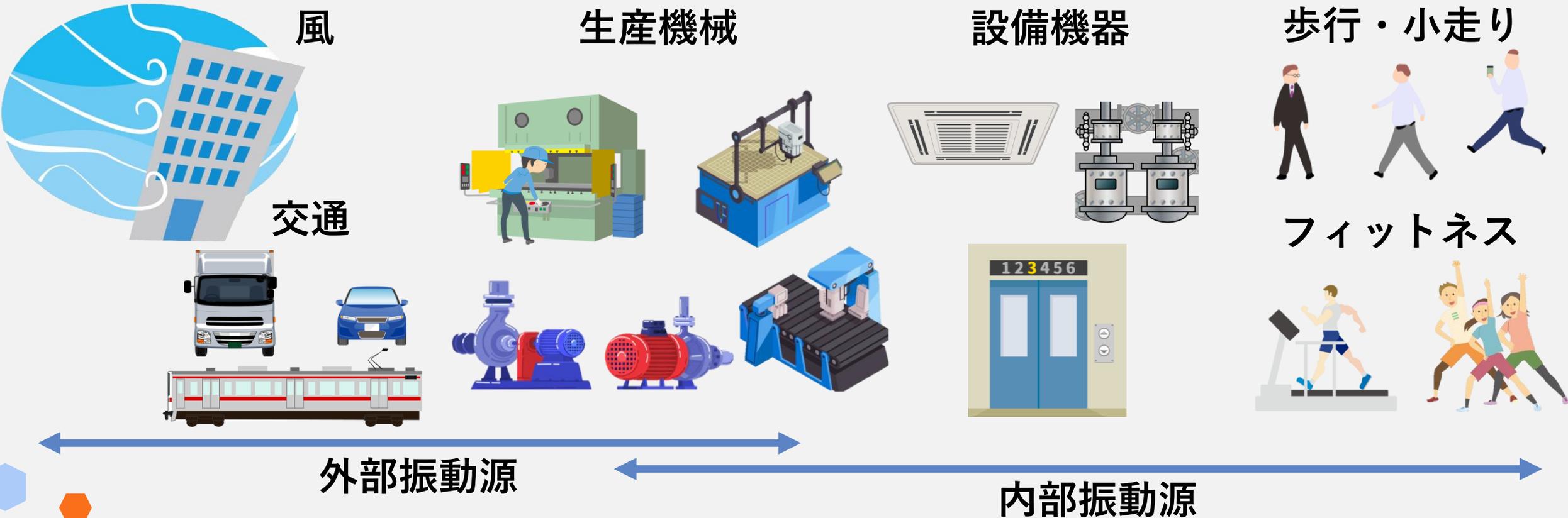
要求性能の変化

コンバージョン

オフィスを住居に改装
許容居住性能がアップ

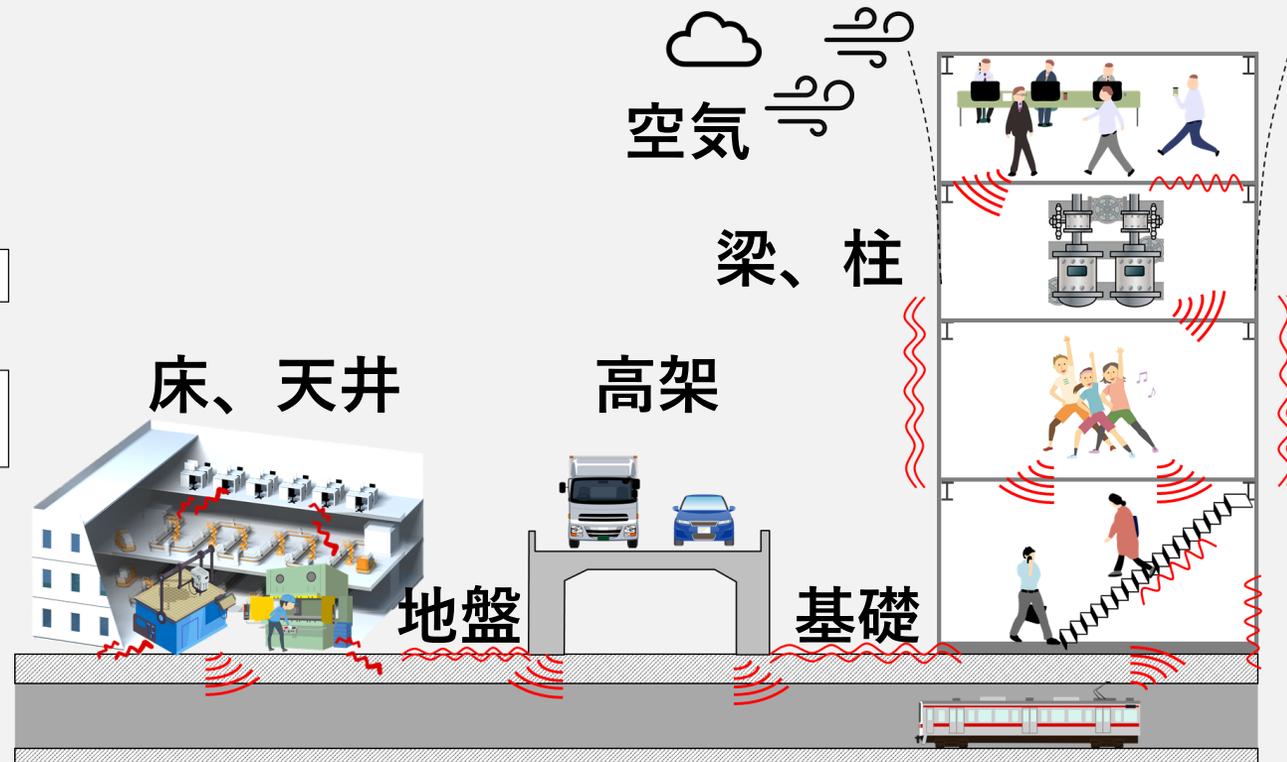
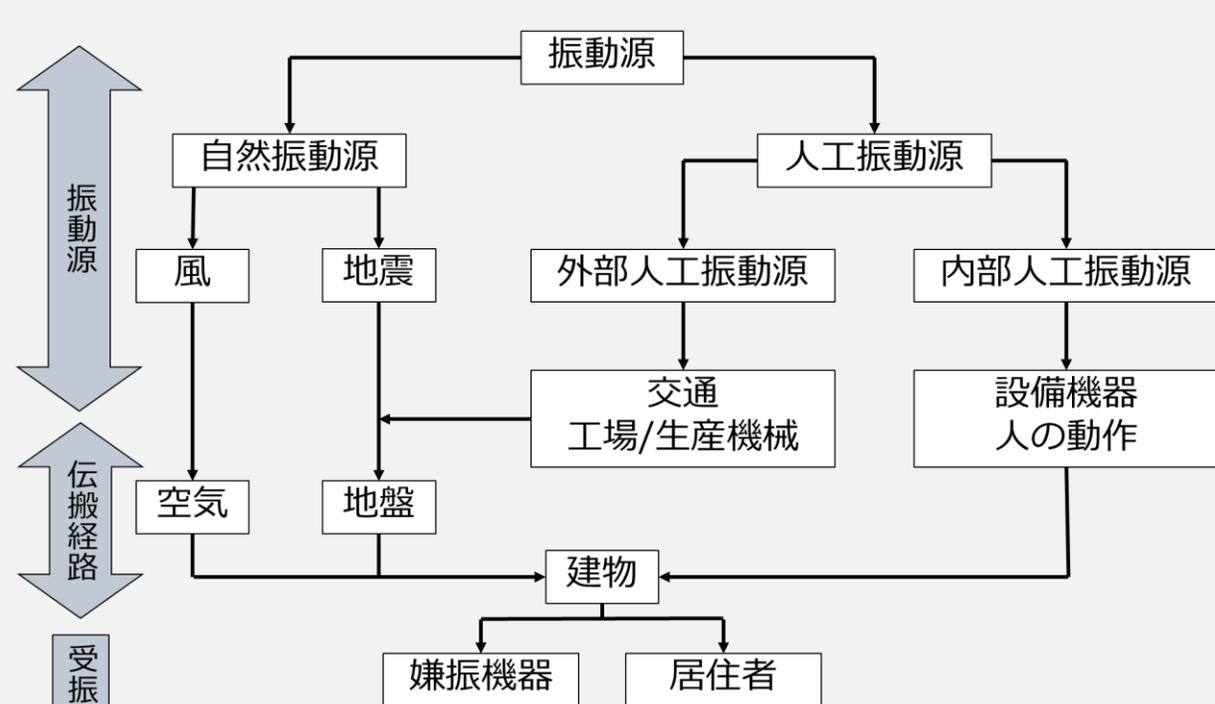
さまざまな振動の“発生源”

振動問題になり得るものは建物内外に多く存在します。



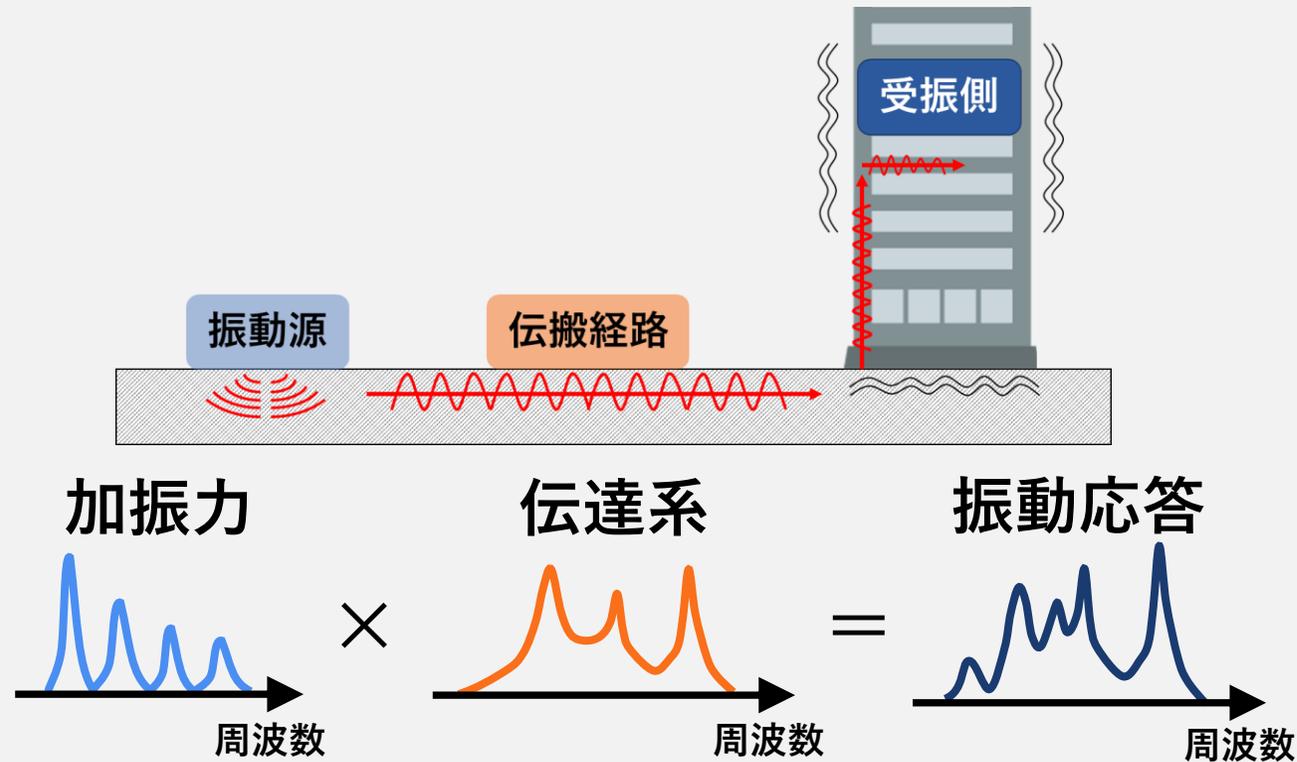
さまざまな振動の“伝搬経路”

振動は地盤や建物躯体を伝わり問題を引き起こします。



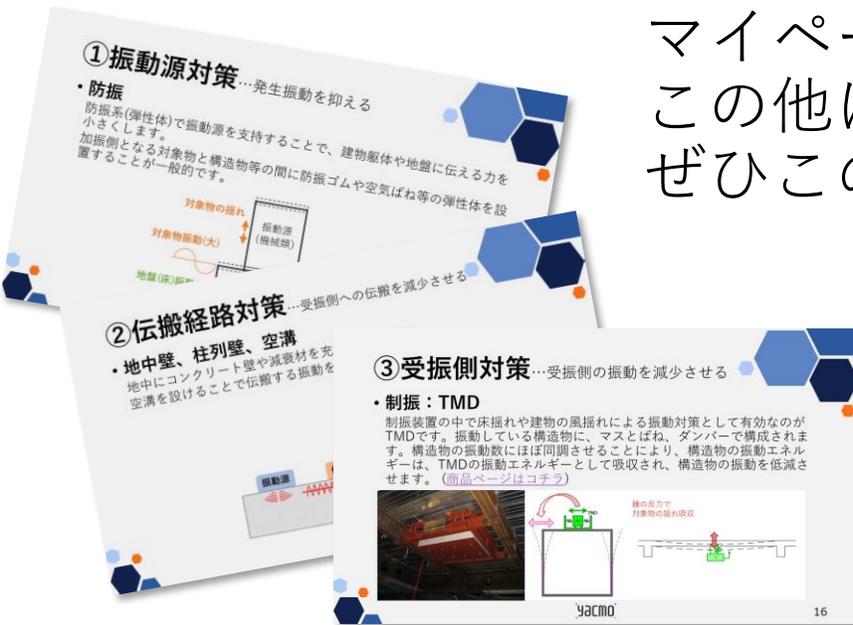
“振動源-伝搬特性-応答”の関係

振動源の**加振力**と地盤や建物躯体などの**伝達特性**によって**振動の応答**が決まります。それぞれの箇所の特徴を把握し対策を検討することが重要です。



続きが気になる方は 会員登録(無料)をお願いいたします。

資料はプレミアム会員登録後(無料)に
マイページよりダウンロードいただけます。
この他にも様々な資料がございますので、
ぜひこの機会にご登録下さい！



会員登録はこちら

HP : <https://www.yacmo.co.jp/>

✉ yacmo-ma@yacmo.co.jp